

## 標準委員会 第23回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2014年2月20日(水) 10:00~12:05

2. 場 所 5東洋海事ビル A,B会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 岡本(部会長), 吉田(幹事), 石川, 伊藤, 上野, 北島, 坂本, 宿谷, 田中, 西田, 西谷, 沼田, 日比, 宮坂(途中入室) (14名)

(代理委員) 高田代理(大阪大学/山口委員) (1名)

(欠席委員) 萩原(副部会長), 市川, 岩崎, 越塚, 塚 (5名)

(常時参加者) 笠原 (1名)

(欠席常時参加者) 鈴木 (1名)

(説明者) 初岡(原子力安全推進協会), 石倉((財)エネルギー総合工学研究所), 藤本(三菱重工株), 福島(株東芝), 湊(日立GEニュークリア・エナジー株), 工藤清一(MHI原子力エンジニアリング株), 新崎(株原子力エンジニアリング), 工藤義朗(原子力安全基盤機構) (8名)

(傍聴者) 鳥居(清水建設株), 深野(原電事業株) (2名)

(事務局) 室岡 (1名)

4. 配付資料

ATC23-0 議事次第

ATC23-1 前回議事録(案)

ATC23-2 人事について

ATC23-3-1 【本報告】「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」改定の概要

ATC23-3-2 「原子力施設の廃止措置の実施」標準改定の概要

ATC23-3-3 添付資料1 「原子力施設の廃止措置の実施」専門部会及び標準委員会指摘事項管理表

ATC23-3-3 添付資料2 「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」

ATC23-4 (欠番)

ATC23-5-1 BF 英語標準案

ATC23-5-2 遮蔽材料標準作業会基本方針(案)

ATC23-6 基盤・応用技術専門部会標準策定スケジュール(案)

ATC23-7 分科会の活動状況について

参考資料

ATC23-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿

ATC23-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

事務局から, 開始時点で委員20名中14名出席で, 定足数を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録(案)の確認(ATC23-1)

事務局から, 前回議事録(案)について説明があり, 前回議事録(案)は承認された。

(2) 人事について(ATC23-1)

事務局から、資料ATC23-1に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

1) 専門部会

①委員の再任【承認事項】

石川 智之（伊藤忠テクノソリューションズ(株)）

審議の結果、石川委員の再任が承認された。

2) 分科会

①委員の退任【報告事項】

□放射線遮蔽分科会

金野 正晴（元(株)フジタ）

②新委員の選任【承認事項】

□放射線遮蔽分科会

奥野 功一（(株)安藤・間）

木村 健一（(株)フジタ）

審議の結果、分科会の2名の委員の選任が承認された。

(3) 【本報告】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」（ATC23-3-1, ATC23-3-2, ATC23-3-3 添付資料1及び添付資料2）

廃止措置分科会の初岡委員、福島委員、工藤清一常時参加者、新崎常時参加者から資料ATC23-3-1, 23-3-2, 23-3-3に基づき、「原子力施設の廃止措置の実施」について本報告があった。質疑・コメント等は下記のとおり。

Q. 再処理施設の廃止措置の検討及び除染・解体時の再臨界（フランスにて事象発生報告）防止についての検討が必要。

→ 次回改定に向けて実績を調査しておくこととした。また、廃止措置の計画の改定時にも検討することとした。

審議の結果、本日の資料中のコメント対応案は了解され、専門部会の書面投票にかけることについて決議を取った結果、全員賛成で投票に入ることが承認された。

(4) 【中間報告】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 2014」

シミュレーションの信頼性分科会の笠原主査、工藤義朗委員から、原子力学会標準「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン201X」案について中間報告があった。質疑・コメント等は下記のとおり。

Q. 応用数学会に“精度保証付き数値計算”に関連する活動があるが、違いは何か？

→ このガイドラインの中でも類似の内容を扱っているが、実在のシステムに対するシミュレーションでは不確かさの発生範囲がより幅広いことから、verificationだけでなく、実験結果と比較して不確かさを定量化するvalidationも重視している。

C. IAEA Safety Series No.100にシミュレーションのreliabilityに関する記載がある。“reliable”であることの定義は可能か？“信頼性”は“不確かさ”の評価で確保されるのか？関係を整理すること。

Q. 分科会で特に力を入れた部分、このガイドの新しいところは何か？

→ “シミュレーションモデルの予測性能”がこれに該当する。従来のモデルV&Vと異なり、原子力分野で重要な“予測”の取扱いに力点を置いている。

Q. 過去のコードに対するバックフィットはどうするのか？

→ 過去のコードに適用するには、必要となる実験・試験及びその不確かさの定量化などの課題がある。

C. 本体3.5の“不確かさを考慮した予測計算”について説明を補足すること。

Q. 本体3.7の品質管理に関して、ソフトのバージョン管理のような事項も示すべき。計算工学会の規格でカバーされているのであれば、関係を記載するか、引用規格としてはどうか？

→ 検討する。なお、ソフトウェアの構成管理については関連規格側で取り扱う事項であり、このガイドではそれらが利用組織内で運用されていること前提としている。このため、このガイドで取り扱う品質管理及び関連規格で取り扱う品質管理について、内容及び関連を整理する。

審議の結果、2週間ぐらいでコメントを事務局に送ることとなり、3月の標準委員会に中間報告を出すことについて決議を取った結果、全員賛成で承認され、次回の専門部会では本報告をすることとなった。

(5) 【報告】標準策定作業の状況報告 (ATC23-5-1, ATC23-5-2)

放射線遮蔽分科会の坂本主査から資料ATC23-5-1, 23-5-2に基づき、原子力学会標準「 $\gamma$ 線ビルドアップ係数」の英語版作成の進捗状況、遮蔽材料標準作業会基本方針案について報告があった。質疑・コメント等は下記のとおり。

Q. 英語版標準案の英文チェックを外注若しくは標準委員会の事務局にお願いできないか。

→ 事務局から、外注は無理であるが、事務局には英文チェックに精通した職員がいるので、対応できるか宮野委員長と相談する旨の回答があった。

Q. 英語版標準の価格はどの位になるのか。先行の2件では、日本語版標準と同額であったようであるが。

→ 事務局で調べる旨の回答があった。

Q. 英語版標準の制定プロセスは、日本語版と同様になるのか。

→ 英語版標準が、日本語標準の単なる英訳版であれば、標準委員会に対しては報告事項となる。(岡本部長)

C. 遮蔽材料の標準は、ユーザーに有用なものなので、制定する意義がある。(岡本部長)

審議の結果、「 $\gamma$ 線ビルドアップ係数」の英訳文章のチェック作業を原子力学会の事務局側で可能かどうか確認すること、遮蔽材料標準作業会の設置を専門部会として了解することが承認された。

(6) 基盤・応用技術専門部会標準策定スケジュール (ATC23-6)

事務局から、ATC23-6に基づいて専門部会の標準策定スケジュールが報告された。

(7) 基盤・応用技術専門部会 分科会活動状況 (ATC23-7)

事務局から、ATC23-7に基づいて各分科会の活動状況が報告された。

6. その他

・次回第24回基盤・応用技術専門部会は、5月20日(火)10時からとした。

以上